

平成27年度 第3回 四條畷市総合戦略協議会 会議録

日 時	平成27年10月2日(金) 13:00~14:20
場 所	四條畷市役所 東別館2階 201会議室
出席者	石関 委員(会長)、高見 委員(副会長)、河野 委員、小西 委員、 中川 委員、中野 委員、深谷 委員 森川 副市長
欠席者	清川 委員、中道 委員
事務局	開 政策企画部長、板東 企画調整課長、伊藤 企画調整課事務職員
議 題	1 開会 2 議事 次第1 四條畷市総合戦略(原案)における意見内容について 3 その他 4 閉会
配布資料	① 次第 ② 座席表 ③ 平成27年度第2回四條畷市総合戦略協議会 会議録

(文中敬称略)

事務局	<p>1. 開 会</p> <p>それでは、定刻となりました。皆様方には、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の出席委員は7人、欠席委員は2人です。四條畷市総合戦略協議会規則第3条第2項の規定に基づき、委員の過半数にご出席をいただいていますので、会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>なお、本日、出席を予定しておりました土井市長につきましては、体調を崩し療養中のため、代理として森川副市長が出席しております。</p> <p>では、会長、よろしく申し上げます。</p>
石関会長	<p>それでは、ただいまから平成27年度第3回四條畷市総合戦略協議会を開会します。今回が総合戦略策定に向けての最終の会議となります。協議会としての意見のとりまとめに向けた議論に結びつけていただくよう、よろしく申し上げます。</p> <p>事務局、本日の資料の確認をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の資料については、事前に送付させていただいているものはありません。机上に配布させていただいているものとして、次第、座席表、第2回四條畷市総合戦略協議会会議録、その他、第1回、第2回協議会において使用した人口ビジョン（原案）、総合戦略（原案）について、本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。</p> <p>なお、机上に配布させていただいている第2回会議の会議録につきまして、P19中段の中川委員の発言で「経済政策」となっていたものを「経済センサス」が正しいということで改めたうえで確定とさせていただきましたことをご報告いたします。</p>
石関会長	<p>2. 議 事</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進める前に、事務局が考えている本日の会議の具体的な進め方について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の具体的な会議の進め方について、説明いたします。</p> <p>総合戦略策定にあたり、本協議会以外からも多様な意見をいただきましたので、まずは、それについて説明させていただきます。</p>

<p>石関会長</p>	<p>また、前回、第2回会議で、それぞれの委員皆様のお立場から、ご提案をいただきたいとお願いしておりましたので、委員の皆様から順に意見や提案をいただきたいと考えております。</p> <p>そして、これらの意見、提案をふまえ、本協議会の意見を取りまとめるにあたり、ご議論いただきたいと存じます。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見等はございませんか。</p> <p>(質問、意見等なし)</p>
<p>石関会長</p>	<p>次第1 四條畷市総合戦略（原案）における意見内容について</p> <p>それでは、次第1 四條畷市総合戦略（原案）における意見内容について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口ビジョン及び総合戦略策定にあたり、本協議会以外からも多様な意見をいただいていますので、その内容について、ご説明します。</p> <p>まず、8月14日～9月14日までの間、人口ビジョン及び総合戦略（原案）に対する意見公募手続を実施しましたが、提出意見は0件でした。</p> <p>次に、上乗せ交付金の交付申請を行うにあたり、国から、メディアと労働団体の意見聴取を実施するよう助言がありましたので、本日の第3回協議会開催を前に、メディアについては株式会社ジェイコムウエスト北河内局、労働団体については大阪府連合会大四地区協議会に対してヒアリングを行いました。</p> <p>株式会社ジェイコムウエスト北河内局からは、戦略に掲げる2つの基本目標に基づく事業をはじめ、各種イベント、観光地等を用いて本市の良さ、魅力をさらにPRしていくべきとのご意見をいただいています。</p> <p>大阪府連合会大四地区協議会からは公共事業の発注に際し、受託業者対して、最低賃金の確保、母子家庭、障がい者の雇用促進等を求める公契約条例の制定を総合戦略に盛り込んでどうかという提案をいただいています。</p> <p>また、本市市議会の藤本議員から、6月市議会定例会で田原台6丁目の山林を含む土地を活用し、大学学部研究施設等の誘致を総合戦略に盛り込んでどうかというご提案をいただいています。</p>

	<p>本市市議会の森本議員から、9月市議会定例会で公共機関におけるWi-Fi環境の整備ということで、すでに市役所本館1階待合スペース及びこの201会議室に設置しているWi-Fiをさらに他の公共施設にも拡大していくことをご提案いただいています。</p> <p>さらに、同じく本市市議会の曾田議員から、人口の増加に向けて本市をさらにアピールする積極的な広報の展開をご提案いただいています。</p> <p>なお、本日ご欠席の清川委員からも事前にご意見をいただいております。保育所の日曜開所の検討についてご提案をされています。</p>
石関会長	<p>事務局から説明がありましたが、これらについて、ご意見はございませんか。</p>
石関会長	<p>公契約条例の制定については、市内事業者の育成、産業振興と密接に関わりがありますので、商工会、枚方信用金庫、りそな銀行の方にそれぞれの立場からご意見をいただけますでしょうか。</p>
小西委員	<p>枚方信用金庫の小西です。我々は北河内7市を主要営業エリアとしていますが、その中で、経済産業省の産業競争力強化法に基づく創業支援のスキームに5市が申請されましたので、連携して取組みを進めています。まだ連携ができていないのが四條畷市と交野市ですが、四條畷市も創業支援スキームの立ち上げに向けて今後は詰めていくという状況であり、交野市においても枠組みがほぼ決まって、次に申請されるような状況です。</p> <p>したがって、北河内7市を主体に、創業セミナーやそれ以外にもいろいろな支援を行っています。創業される方は地域金融機関に対して「創業する時は一生懸命になってくれるが、一旦創業するとあとは放置されてしまう」という意見も持たれているようですが、我々地域金融機関の強みはフットワークが軽いことと、限られた営業エリアの中で営業していて、常にそのエリア内の方はいつでも訪問できるような体制をとっていることなので、創業者の創業時の支援から、成長段階に合わせて2～3ヶ月に1回程度、定期的に訪問して、問題を解決したり、その時に一番悩んでいる点を一緒に考えて解決したりしています。</p> <p>やはり、事業に関して相談できる相手は必要だと思いますので、資金面の支援だけに限らず、販路開拓や連携等、いろいろな</p>

	<p>部分で力になりたいと思っています。それがお客様の要望でもありますし、我々の強みでもあると感じていますので、その点についてしっかりと取り組みながら、単にスキームを作って創業を支援する、セミナーを開く、相談窓口をつくるだけではなく、実際にスタートから最終までお手伝いできるように、四條畷市商工会や市の産業観光課と一緒に作り上げていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>創業支援の関係で具体的な取り組みについて、作成した後の事業を回していく話をさせていただきましたが、会長は公契約条例の関係についての質問をされたと思います。</p> <p>今回、我々の地域の労働の団体から、障がい者や母子家庭等の方の就業を確保する等、働けない方もすくい上げていくような企業を育成し、全体の雇用創出や優良企業をつくっていく趣旨の公契約条例がありますが、それについてご意見をいただけますでしょうか。</p>
小西委員	<p>それについては、まだ具体的ではありませんが、今年の4月に枚方の村野に大阪府立高等支援学校が開校し、今は1期生が在籍しています。我々は近隣に支店があるので、そこの校長から職場体験をしてくれる企業を紹介してほしいという依頼がありました。8月にその話をいただいて、今月中頃、各支店の支店長を集めて学校の取組や内容等を研修し、今、我々の取引企業でそういう方の職場体験を受け入れてもらえるところと連携して取り組んでいるところです。将来的には、卒業生の受け入れをめざして、まずは意識の変革を図るような取り組みを行っています。</p> <p>本市には直接的な関わりはないかもしれませんが、ただ、その学校の生徒は北河内7市と高槻市、茨木市辺りから通学しており、なおかつ就業を主旨に、入試を経て入っている人たちなので、そういう人たちを支援できないかという話を受けて取り組んでいます。その点をもう少し広げられれば良いと考えています。</p>
石関会長	<p>商工会の方はいかがでしょうか。</p>
中川委員	<p>産業振興に係る案についての意見でしょうか。</p>
事務局	<p>公契約条例の制度が連合大四から提案されたので、関わりのある</p>

石関会長	<p>る金融機関と商工会の方から、この提案に対するご意見をいただきたいという趣旨かと思えます。</p> <p>他市でも一部で導入されていますが、例えば、最低賃金を守る等の条例を作って必ず適合するという、総合評価的なものです。単に価格で入札するのではなく、ポイント化して入札にかける等、そのような制度になっています。それについて総合戦略に入れるかどうかということと、それぞれのお立場からご意見を頂きたいというのが会長の質問だと思います。</p> <p>ジェイコムと連合の意見がメインでしょうか。</p>
事務局	<p>第2回と第3回の間で伺ったのが、議会の議論や、総合戦略を作るに際して産学金労言を基本に意見を聞くということでしたが、労と言についてはあまり訊かれていなかったということで、連合大四とメディアの方に伺ったという状況です。</p> <p>メディアの方からは広報活動について、いろいろな媒体を使って市のアピールをしてはどうかという意見をいただきましたが、これには誰も異論がないと思えます。ただ、公契約条例がふさわしいかどうかと思うところもあり、商工会や金融機関であれば他市の状況もご存知かと思ひ、お聞きできたらということでした。</p>
中川委員	<p>それに関しては、報告の準備をしていません。</p>
石関会長	<p>これについては、事前に情報を流してほしかったと思ひます。</p>
事務局	<p>確かに、こちらも情報を流していませんでしたので、すぐにご意見をいただくのは難しいかもしれませんが、基本的に公契約条例で縛ると過渡期にかなり厳しくなる場所があります。市内業者についても限られた状況になるので、できれば前述の総合評価方式について検討していくという形で、総合戦略の中には盛り込めたら良いというのが、現在の我々の考え方です。</p>
石関会長	<p>そう言われても、すぐには意見が出てこないと思ひます。</p>
事務局	<p>それでは、これについては、一度我々の方で検討させていただきたいと思ひます。</p>

石関会長	<p>また、文面で整理してください。 りそな銀行の方にもご意見をいただきましょうか。</p>
深谷委員	<p>先ほど、枚方信用金庫の方も言われたように、創業に関する銀行の関わり方であれば説明できますが、今言われた趣旨であれば違う話になってしまうと思います。</p>
石関会長	<p>それでは、まず市の方でまとめてください。</p>
石関会長	<p>もう1つ、藤本議員から、田原台6丁目の山林を含む土地活用についての提案がありましたので、大学関係者として意見を述べたいと思います。</p> <p>最近、18歳人口の話題がよく出されますが、大学は学生数が減っているのが現状です。そういう中で、最近の流行は、大学を駅の近くに移転するという計画です。例えば、立命館大学は茨木市に巨大なキャンパスをつくり、京都と滋賀の大津から約5,000人の学生が移動しました。関西大学は吹田から高槻の方に移動しました。大阪工業大学も大阪の梅田にキャンパスをつくりました。天下の阪大も、箕面から御堂筋線の延線の駅近くに移すという流れになっています。</p> <p>これは近年、遠距離のキャンパスに通うことを嫌がる学生が増えていることと、施設が古くなっていることが大きな要因です。特に立命館大学は施設をかなり良くして誘致しています。そういう意味で、田原台という立地条件を考えた場合、移動手段が主要駅からバスになるので、今の時世には合っていないような気がします。</p> <p>もう1つ、今はIT関連でネット環境が整備されていないと大学の講義、研究等を進めるうえで厳しいので、かなりの額を投資しなければなりません。一方で、他の大学が駅近の立地を考えているのは事実ですので、それらをふまえると、投資額に見合うものが得られるかどうかという問題があります。</p> <p>また、学生が集まることは、それほど治安が良くなるとは言えないと思います。学生の風紀が悪いわけではありませんが、若者の行動にはある程度の自由度があります。それに対して、特に田原台は閑静な住宅地で、そういう環境を求めて居を構えている住民の方が多いと思いますので、そういう点で考えると、研究機関は分かりませんが、田原台に大学を誘致するのは難しいのではな</p>

事務局	<p>いかというのが私見です。</p> <p>議会では、今、会長が言われた、人が集まるところに大学を誘致するという考え方とは逆の発想で、大学が来れば、そこが繁栄するのではないかという提案のもとに議論されています。</p> <p>ただ、ご指摘のとおり、投資をしたのちにまちを繁栄させていくことを考えると、昨今の状況から、大学としては待てる時間がないと思われまます。ご意見をふまえ、我々はどのようにしていくか考えさせていただきます。</p>
石関会長	<p>ありがとうございます。</p>
事務局	<p>議会ではあと2点ほど議論がありました。</p> <p>1つは、総合戦略の一部としてWi-Fi環境が、総務省からも求められています。役割としては、人が集まるところについては民間で整備をして、その他の役所や図書館等、インセンティブが働かないところについては行政で補完するというのが総務省の考えです。</p> <p>そのようにネット社会の利便性や快適性を高めて、住み良い環境をつくるのが総務省の考え方なので、基本的には総合戦略の中に盛り込んで、順次進めていこうと考えています。ただ、総務省の考え方では、行政だけではなく、民間の方にも働きかけるような形をお願いしたいと考えています。</p> <p>もう1点は、人口増加に向けた広報活動で、これについてはジェイコムの方からも意見をいただいております、様々な方法があるのではないかと考えられます。議会の議論では、先進事例等から、見映えの良いポスター等を作成して駅など他市の人も訪れるような場所に貼るとか、電子媒体を活用してPRするというような案が出ています。これについても、今後、いろいろな関係機関等の中で議論していただき、プラスになることについては積極的に取り入れていこうと考えています。</p>
石関会長	<p>ただ今の市の提案に対して、ご意見等はございませんか。</p>
中野委員	<p>広報活動について、人口を増加させるための広報というのは効果があるのでしょうか。</p>

事務局	<p>ご指摘のとおり、広報だけではだめなので、広報と対を成す、それに見合った施策や事業とリンクして、ポスター等の広報媒体を見て、四條畷市はこういうことをしている、こういうことをしているなら四條畷市に住んでも良いと思ってもらえるような呼び込みが必要です。</p> <p>したがって、今後、5年をかけて事業を進めていきますが、広報と事業の両輪で進めていくべきだと考えています。</p>
高見委員	<p>W i - F i 環境の整備について、公共施設に整備することは可能だと思いますが、例えば、四條畷市に入るとどこにいてもW i - F i が繋がるようにすることはできないのでしょうか。</p>
事務局	<p>公的機関における整備は行政の方で進められますが、例えば、民間の会社や駅などについては事業者の方で整備していただかなければならないので、それについては働きかけをしていこうと思っています。</p> <p>ただ、W i - F i 環境を整備するとメリットが数多くある一方で、例えば、情報の漏えいやなりすまし等のデメリットもあるので、その辺りは対策も講じながら進めていくべきではないかと考えています。</p>
小西委員	<p>W i - F i 環境については、観光地であれば、観光客にとってW i - F i 環境が必要とされると思いますが、四條畷市のように観光地ではないところでもそれが必要なのでしょうか。どういう人を対象に整備しようとしているのでしょうか。</p>
事務局	<p>2つあると思います。1つは、他市に比べて小さいかもしれませんが、四條畷市にも一定の観光名所があるので、市外の方にそこを検索しながら散策してもらうケースです。</p> <p>もう1つは、市内で快適に利用してもらうケースで、例えば、図書館に行って調べ物をする際に、自分でタブレットを持ちながら簡単に検索できたり、体育館でスポーツに触れ合っている人が、このような場合はどうするかという調べ物ができたり、そのような環境を構築すれば利便性が働いて、このまちについて住みたい、住み続けたいという機運が高まるのではないかと考えています。</p>

小西委員	<p>ある市でもそのような話が出ていて、例えば、他市から観光客が来た場合、宿泊するとお金を落としてもらえはるけれども、日帰りならゴミだけ残していくという、切実な声が聞かれました。確かに、経済効果はゼロではないと思いますが、果たして、それに見合うだけの効果があるかどうかというところが疑問なので、そういう意見もあったことをお伝えしておきます。</p>
石関会長	<p>他にご意見はありませんか。</p> <p>ただ今ご意見を頂いたいくつかの案件については、委員の皆様のご意向を十分にふまえ、事務局の方でとりまとめて、会長一任とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしとします。</p>
石関会長	<p>続きまして、第2回の会議で、委員の皆様それぞれご提案をいただくこととなっていましたので、順に発言をお願いします。</p>
河野委員	<p>我々の旅行会社に顧問としてプロデュースを経験した者がおり、『稼げる観光』という本を書いているので紹介します。彼は30人31脚走の大会をプロデュースしていますが、それを企画した意図は、1人なら優秀な子はそれだけで終わってしまい、落ちこぼれの子はだめになってしまうけれども、できる子もできない子が30人が一緒に動くことで、練習も含めて盛り上がるというのが原点です。</p> <p>また、本の中では、徳島の上勝町の葉っぱビジネスも紹介されていますが、実はこの葉っぱビジネスで地元のおばあさんたちは1,000万円の収入を得ています。上勝町は徳島市内から1時間以上離れていますが、村興しの参考として各地から多くの方が施設を訪れています。</p> <p>何が凄いかというと、平均70～80歳のお婆さんたちが、自分の売上の確認や状況を把握するために1日3～4回はパソコンを見るということです。いろいろな助言をされていると思いますが、お婆さんたちは、市やボランティアに任せるのではなく、自分中心で動いています。お金儲けは別として、高齢になっても人として主役になれるところが出てきたから活性化につながっ</p>

	<p>ているのです。</p> <p>もう1つ、このまちでは、やまびこのスポットを調べたということで、その2点で非常に盛り上がっています。</p> <p>そのように考えますと、国からお金を受けて活動したり、ボランティアの人に助けてもらったりするよりも、まず、ベースとして金儲けを考えなければならないと思います。儲かるか、儲からないかということがベースにあって、それをそれぞれの専門家がどのような形で考えるかということです。いろいろと素晴らしい提案があると思いますが、例えば、漬物を上手く漬けるとか、整理整頓など地道なことでも良いので、些細なことでも自分ができることを探して、どういうことが素晴らしいかということを取り上げていったと書いてありました。</p> <p>また、千枚田の棚田が放置されていたので、そこに手を入れて活用した例もあります。</p> <p>W i - F i 環境については、それが広がる理由は f a c e b o o k にあるそうです。ホームページを作って高い費用をかけなくても、口コミが f a c e b o o k 等で広がって、プラスの輪が広がっていくということが、進め方として書かれています。</p> <p>その他、オリンピックの話が出ていますが、実はその1年前から、今、花園を拠点の1つとしているラグビーの誘致を展開しています。オリンピックに意識を向けるのではなく、近くのラグビーを含めた誘致合戦について書いてありますので、必要でしたらこの本をお読みいただければと思います。私も先週貰ったばかりで、顧問が本を書いて販売しているのかと思ったのですが、後半はシステム作りについて書いていますので、参考までに提案させていただきます。</p> <p>自分では何も考えられていませんが、それぞれ地元の方が自ら主役になれば、やる気も出てくるし、年齢に関係なくできるのではないかと思います。</p>
石関会長	<p>それでは、続いて小西委員、お願いします。</p>
小西委員	<p>前回、高齢者の空き家対策を含めた住み替えの提案をしましたので、それ以降の動きについて報告したいと思います。</p> <p>近畿の金融機関の監督官庁は近畿財務局ですが、内閣府のまち・ひと・しごと創生本部の方から、各金融機関、特に地域金融機関に対して、地方創生にどのように関与しているかというアン</p>

<p>中川委員</p>	<p>ケートが来ました。そこで、我々が北河内7市の関与状況や、具体的に四條畷市に提案した内容等を回答したところ、住み替え事業が事例の候補となり、スキームを詳しく出すように言われたので、9月30日付で報告しました。この部分が、来年度の新型交付金支給の対象にどのように関わるかということに関係してくると思います。</p> <p>そのように、提案させていただいた内容は、四條畷市だけではなく、近隣市町村にも提案させていただいていますので、採用されて動き出した時には、いろいろな形で住み替え事業が進むのではないかと思います。情報として報告させていただきます。</p> <p>商工会ですが、当所は従業員数7人、うち女性が3人という小さな所帯で、収入は市の補助金が7割、会費が2割、その他手数料等で成り立っている組織です。</p> <p>提案については、会員の意見等もまとめて、3点ほど述べたいと思います。</p> <p>1点は、ハードの部分でお金のかかる話になりますが、工業団地の提案です。用途地域等、いろいろな制限があると思いますが、昼間人口を増やすには、従業員を増やすとその地区は潤うのではないかと思います。今後、枚方信用金庫の方とも創業に関して連携しますが、インキュベーション施設等、ハード面での整備の提案です。</p> <p>次は、楠公と忍ヶ丘に商店街がありますが、シャッターを下ろした店舗が増えています。したがって、商店街自体の活性化も必要ですが、まずそれぞれの店の収益が上がらなければ、閉店が増えてシャッター通りになってしまいますので、専門家を商店街に派遣して、忍ヶ丘、楠公、栄のブランド化に向けて、5年間かけて調査をしていただき、報告書を提出してもらうことも必要かと思います。5年間は中期になるので、専門家が常駐する形で、個店のヒアリング等を含めてブランド化に向けて進めていくということです。</p> <p>我々は確定申告も受けていますが、今は所得税がゼロのところが結構あります。確かに、人口減少時代に収益を上げるのは難しいと思いますが、何とか店の特色を出して、他の地域からも人々が買いに来るような魅力ある個店、商店街になっていただきたいと思っています。</p> <p>最後は、他の商工会の事例になりますが、羽曳野市商工会がジ</p>
-------------	---

<p>高見委員</p>	<p>ヤム等の名産を作っていますので、四條畷も名産を特定していただいて、土産品として持ち帰ってもらえるものを5年間で作れると、少しはマスコミにもアピールできるのではないかと思います。</p> <p>いずれもお金のかかる話ですが、3点を提案したいと思います。商工会会長から補足はありませんか。</p> <p>企業誘致については、四條畷市の土地柄から製造業を集積した工業団地をつくることは難しいと思います。したがって、藤本議員から田原台へ研究施設の誘致の話がありましたが、電通大もありますので、そこで研究されている学生や研究者と連携できるような企業を誘致する場所をつくってはどうかと思います。アメリカのシリコンバレーほど大きなものはできないと思いますが、ソフト関係の企業団地のような形をめざしてはどうかと思います。</p>
<p>中野委員</p>	<p>北出小学校が廃校になった時に、跡地に高齢者向けの福祉関係の施設ができると聞いて非常に期待していました。</p> <p>今、IT化によってバーチャル世界のコミュニティは発達していますが、昔からある地域のコミュニティは、地縁も血縁も縮小し、自治会組織も町会組織も昔ほど機能しなくなっています。その原因の1つとして、先ほど商店街の話がありましたが、商店街自体が地元を拒否していることが挙げられます。つまり、楠公の商店街も昔は店の人がそこに住んでいましたが、しだいに郊外に家を持つようになり、商店街は店だけのところが増えてきました。</p> <p>そうすると、昔は町会と商工会とが合体していろいろなことをしていましたが、しだいに店が暇になって、付き合いをすると商店はお金を出さなければならないと思うのか、そのような方面でも縁が切れてしまいます。そうすると、地域の人も地元の商店で買い物をせずにスーパーで買うようになって、悪循環に陥っているような気がします。</p> <p>それで、北出小学校跡地に福祉関係の施設ができると聞いた時に、私は高齢者でも、高度な介護を要しない要支援～要介護1程度の方が集う場所にして、幼稚園か保育所を同じ敷地内につくって、グラウンドで交流できて、元気な高齢者がそこで運動をするような、福祉コミュニティができるのではないかと期待していたわけです。それがその頃につくられていれば、今言われているよ</p>

うな宣伝をわざわざしなくても、マスコミの方から取材に来たと思います。

そのような原点に戻る施策が必要ではないでしょうか。IT化も大事ですが、高齢者が全員パソコンを使えるわけではありませんし、携帯電話さえ使わない人もいますので、そういう情報化から落ちこぼれて、なおかつ元気な人には、少しストレスを与えなければなりません。そうしなければ、人間は呆けてしまって、家に引き籠ってしまいます。そこで、幼児や小学生と接することによって少しストレスを与えて、健康寿命を延ばしていく方向の事業を展開すると良いのではないかと思います。一部関東では、民間によって、そのような高齢者の介護施設と幼稚園を一緒にして交流を図る取組みをしているところがあります。そういうことも考えてみると良いのではないのでしょうか。

一方で、団塊の世代が持っている知識の活用も必要だと思います。まだまだ団塊の世代は元気ですから、彼らの持つ力をそういうところに活用すると、人件費等の問題も解決します。高齢者が自らを活性化するような取組みを行うと、昼間に出掛けるようになり、学校から帰って来た子どもたちも含めて家族は安らぐ場を持つことができます。高齢者が一日中家の中にいるだけでなく、昼間は出掛けて、保育所で子どもと遊んでくれるようになると、子どもの母親は外に働きに出ることもできます。そうすると、外に出た子どもを家に呼び戻すことも可能になります。高齢者の単身世帯でいずれ空き家にしたり、他人に貸したりするのではなく、わが子を呼び戻すという方向も考えられるわけです。

これはそれほどコストのかかる話でもありませんし、これから学校がまた統合されると跡地が出ますので、そのような活用方法も考えていただくと良いのではないかと思います。

深谷委員

いくつか提案したいと思いますが、お金のかかる話です。また、程度もバラバラで不明なところもありますが、説明させていただきます。

あくまでも軸足として考えるのは定住促進であり、魅力と活力あふれるまちづくりのために、どうしても四條畷のベースとして考えなければならないのが、自然と共生するエリアです。都心部へのアクセスが良くて、なおかつ都心圏では少ない緑が豊かにあるところは他にはそれほどないのではないかと思います。そして、それを軸足と考えた場合、人口が減らないようにするには、

今住んでいる人をそのまま留めるか、誘致するという方法が考えられます。

そこで、1つは、すでに全国の一部のエリアでは行われている市民農園を提案したいと思います。家庭菜園ができる庭付きの戸建て住宅を持つということです。これは戸建て住宅の開発が絡んできますが、今は必ずしも皆がタワーマンションに住みたいわけではなく、老後はゆとりをもって長閑に暮らしたいと思う人もいます。特に東京の都心から少し離れたところでは市民農園が人気を得ていますので、自分で土地を持って家庭菜園をする、あるいは市が一部買い上げて安く貸す等、方法はいろいろあると思います。

イメージ的には、高齢になって自宅を持っていると手間が多いので、マンションに移りたいという人もいるかもしれませんが、一方では必ずしもマンション暮らしを望んでいない人もいますので、庭付きの戸建て住宅の需要はあると考えます。それに対して、自然が近く、都心へのアクセスも良い四條畷をアピールするわけです。

先ほど広告の話がありましたが、一括してそれに近いことをしている民間の業者があります。例えば、もっと四條畷をアピールするためにラッピング電車を走らせたり、動画サイトで配信したり、媒体ごとに別々に依頼するのではなく、全体を見て統合的に情報発信の方法を考えて、様々な媒体の情報を一括して配信してくれる業者を活用するということです。特に動画サイトは、高齢者で見る人は少なく、若い世代が見るので、先を見据えて動画サイトで若い人に四條畷を訴求し、いずれ四條畷に住みたいと思わせることが重要です。例えば、四條畷市役所のホームページにカヌー大会の様子が紹介されていましたが、そのようなイベントの現場の情報を配信するというイメージです。

それから、河野委員から自分が主役という話がありましたが、やはり四條畷に来てもらうきっかけは、住んでいる自分たちが作るというところを軸にしなければなりません。単なる売り込みだけでは難しいので、自分たちの生の声を届けるような動画配信をすることが大事になります。高齢者が自分の声を伝えるのが難しいのならば、例えば、電通大の協力を得た産学官連携で、学生の声を通じた動画配信を行って、プロに依頼しない形で、自分たちの生の声を届ける場所に軸足を置くべきだと思います。

それから、イオンに人が集まるので、そこをPR拠点として、

人が寝屋川に流れるのを食い止めながら、イオンを活用した何らかの活用をするべきです。それがイオンとの包括提携になるのかどうかは分かりませんが、協力関係による四條畷市としての情報発信が必要だと思います。

また、私の思いとしては、どうしてもビッグコンテンツが必要だと思っています。予算の問題もありますが、私は半年ほど前、話題になっている佐賀県の武雄市に視察に行きました。武雄市は四條畷市と同じく人口5万人くらいのまちですが、図書館をT S U T A Y Aに全面委託しています。どのくらいの費用がかかったのかは分かりませんが、計画からオープンするまで2年4ヶ月だったと聞いていますので、5年のスパンでできると思います。結果的に、5万人の市の図書館に半年間で100万人を集客したと聞いていますので、そのくらいのビッグコンテンツが必要ではないかと思っています。実際に行きますと、武雄市は大変に賑わっています。図書館も満員です。スターバックスも入っていて、心地良い空間になっています。そのように、少し変えるよりも大きく発想を変えるようなことも必要ではないかと思っています。

その他、「子どもたちのすこやかな育ちを支援」というところで、7月から医療費助成の対象年齢が拡大されたようですが、他県や他市では中学生まですべての医療費を無料としているところもあるので、もう少し踏み込んでも良いのではないかと思います。予算の問題もありますが、そのように感じました。

石関会長

それでは、私からも提案したいと思います。私は今、デジタルゲーム学科でアプリを制作しているので、今回、アプリを提案させていただきます。

これは、四條畷市の知名度向上や人が集まることをメインのテーマとして考えました。四條畷市は歴史的遺産がかなりあるようですが、楠公さんの話が知られているくらいで、他はあまり知られていません。そこで、私の方でいくつか調べて、何か使えないかと考えています。

その1つが、日本最古のキリシタン墓碑の発掘という情報で、これを使ってアプリを作れないかと考えました。我々が作るゲームのアプリは、基本的にスマートフォン配信で、メインはiPhoneですが、iPhoneをAndroidで配信する形になっています。具体的には、女性のキャラクターを使って四條畷市の歴史を謎解きの形で紹介しています。iPhoneアプリ、A

androidアプリの良いところは、配信が特に媒体を選ばないところ。通常のゲームは3DSやPSであればハードを買わなければなりません。iPhone、Androidは今6～7割の人が使用されているということなので、媒体に対する障壁がありません。そう考えますと、全国、ひいては全世界に配信することが可能です。

昨年、私が作った「コトノハノキセキ」というアプリは大阪市内を舞台にしたゲームで、教員と学生が関わって作っています。昨年9月に京都のイベントでこのアプリの配信を予告したところ、Yahoo!のトップニュースに載り、世界中から30～40万のアクセスがありました。ただ、今は開発が止まっていて、年内に全部配信できるかどうかというところです。

そのような形でアプリを作っています。折、今回の提案として少し作ってきましたので、紹介したいと思います。

まず、資料館が見えていて、タッチするとテキストベースの文字が出てきて、資料館の中に入れます。プレイヤーは学生となっており、夏休みの宿題でキリシタン墓碑を調べるという形で話が進みます。進んで行くと、途中で岡山城主の娘と言う女性に呼び止められ「私を暗闇から出して」と言われます。そうすると場所が忍陵神社に移動します。忍陵神社は元々結城氏というキリシタン大名の城があった所です。そこを田原城を舞台にした話になっています。そして、声に導かれる方向に行くと、裏手に洞窟があるという設定になっています。女性のキャラクターが「私はこの城の娘、結城マオです。今から500年近く前、この地はキリシタンの楽園でした。どうか私を連れてこの洞窟を通り、田原城のパウロ様のもとへお連れください」と言って話が続きますが、これは史実に基づいて作られています。「田原城への道筋が示されます。もし間違えたら地上に戻ってしまいます。間違えて戻らないようにするには、クルスにタッチし、私と一緒に祈りを捧げてください。そうすれば、地上に戻ることなく、元の場所に戻るはずですよ」という説明があって、四條畷の歴史に関する問題が出されます。そして、正解であれば道が開いて先に進めます。

細かいところはまだできていませんが、このような形のゲームです。歴史はホームページ等でも紹介できますが、そうすると、そこに見に行き終わりになってしまいます。しかし、ゲームであればインタラクティブなので、操作性の部分でプレイヤーが積極的にものを語れます。そういう意味で使っていくと、かなり知

事務局	<p>名度も上がります。</p> <p>また、若い学生たちはキャラクターが大好きなので、キャラクターを使って地元のPRもできます。最近、キャラクターの世界で聖地という言葉が流行っていて、アニメやゲームの舞台になった地を巡るイベントが人気を得ています。この辺りでは西宮や滋賀の天津、今人気が出ているのは埼玉県秩父市です。秩父市は今公開されている劇場版アニメの舞台となっており、秩父市の花火大会や西武鉄道のポスターにもアニメのキャラクターが出ていて集客につながっているため、キャラクターを使った集客も提案できると思います。</p> <p>もう1つ、今アニメで重要なのが声優です。プロかセミプロの声優を使って、声のアピールで客を呼ぶのも新しい戦略です。今、声優の人気は大変な集客力を持っています。例えば、大阪城ホールで声優だけのイベントを行うと5万人もの客が入ります。うちの大学も11月の大学祭で毎年声優のイベントを開催しており、そのおかげで関西近辺の声優の好きな人たちが徹夜で並ぶような状況になっています。したがって、声優あるいはセミプロの声優志望の役者や学生等を使うのも1つの方法であり、それを市と絡めるなら、公開オーディションをしていただきたいと思います。できれば、それを「イオンモール四條畷」のイベントホールを借りて開催して、動画配信すると、知名度も上がるし、集客にもつながると思います。</p> <p>肝心のコスト面については、本学は定款でビジネスをしてはいけないことになっていますので、大学の研究授業の一環として作らせていただく方向で考えています。</p> <p>ご提案をありがとうございました。基本的には、第1回、第2回でもご説明したとおり、総合戦略については以降5年間の計画であり、国の方でこれについては積極的に進めていくということです。なので、交付金を獲得する方向で、皆様からいただいた内容については盛り込んでいく方向で考えたいと思っています。</p> <p>その中で具体的な話になりますと、まず、個々の利益を追求した取組みの提案については、商工会の方からもご提案いただいている創業支援の関係と商工業者の支援という形で進め、商工会の方々の協力を得て模索していきたいと考えています。</p> <p>会長からもご提案がありましたように、啓発やPRも重要だと思えますし、盛り上がれば事業者の積極的な提案や参画もいただ</p>
-----	---

けると思いますので、いろいろな方向を絡めながら進めていきたいと考えています。

それから、前回いただいた内容については、市の施策からすると難しい状況にあります。高齢者については、健康高齢者の増加をめざして、住み慣れた地域で過ごしていただくことをベースに高齢者施策、高齢福祉を進めている状況です。

ただ、空き家対策は喫緊の課題と捉えており、今年度と来年度の2ヶ年をかけて特定空家等の認定、対策、状況把握等を進めながら、何が本市に適しているかということを検討しますので、これについても、まず空き家という観点で盛り込んでいきたいと考えています。

また、商工会からご提案いただいた工業団地等を含めた企業誘致については、副会長からもご提案いただいておりますが、田原台は学研地域に該当しており、研究機関については大阪府の許認可を得ており、誘致は研究機関でなければならないと言われております。かつ、そのような施設であれば税についても一定の減税を行えるように、本市を含めて制度設計が行われています。

また、小さな企業でも一定の期間減税等を行うという取組みの提案を大阪府の方からいただいて、先般、四條畷市もそれに参画するという意思表示をしたところです。今後はいろいろな広報媒体を活用しながら、企業の大小を問わずに誘致活動を行い、創業支援等もその中で行っていきたいと考えています。

地域コミュニティの希薄化については、平成18年に総合計画を策定した段階でも大きな問題となっており、この間もコミュニティづくりについて取り組んできました。ただ、今の社会情勢を見ますと、核家族化の進展等の問題から昔のようなコミュニティの醸成、体制づくりが欠けているように思います。その中で、まさしくご提案いただいた内容になりますが、3年ほど前から、各地域の公民館等に一定の資金を提供して、コミュニティの拠点をつくり、高齢者が集って生きがいをつくってもらい、健康で長生きしてもらうための取組みを進めています。

かつ、北出小学校の跡地については、えんじょいというふれあいサロンのものを立ち上げており、そこではいろいろな娯楽やイベントを進めています。ただ参加率はなかなか増加していない状況ですので、今後はご提案いただいたような世代間交流等を取り入れながら進めていけたらと思っています。その前段として、旧北出小学校の近くにある保育所を活用して、高齢者が保育所を

	<p>訪問して子どもたちと触れ合う機会づくりを進めており、そういうことも拡大していきたいと考えています。</p> <p>また、深谷委員からご提案いただいた定住促進については、まさに我々も人口減少社会に対応して人を呼び寄せたいと言いつつ、メインは定住化と捉えています。全国的にアピールできるものは大きくないという認識のもと、ある資源を最大限に活用しながら定住化を図ることがメインだと考えています。</p> <p>その中で広報戦略については、議会、市民、企業の方等、数多くの機関からのご指摘をいただいていますので、会長のご提案とともに、できれば産学公の連携で何かできたらと思っていますので、よろしく願いいたします。</p>
石関会長	<p>ただ今の各委員の方々及び事務局からの提案等についてご質問、ご意見等はございませんか。</p>
小西委員	<p>空き家の問題が喫緊の課題であるというお話がありましたが、特定空家は、空き家になってかなりの年月を経て、崩れかけている危険な空き家という認識があると思います。しかし、実際に北河内にはそういう空き家はまだ少ないと思います。結局、問題は、高齢者だけの世帯や独居高齢者の世帯で、住んでいる人が判断能力も十分にある間に後始末の問題を一緒に相談できるような窓口がなければ、最終的に危険空き家になってしまうということだと思います。</p> <p>危険空き家になるのは、例えば、相続人がいないとか、相続に問題がある等、いろいろな課題があると思いますが、一旦空き家になってしまうと、それを動かすのはかなりのパワーがなければできないし、ハードルが高くなります。したがって、我々が提案しているのは、住み続けている間に将来的な後始末を一緒に考えるということです。資産のレベル等、個々に状況は違うと思うので、そういう相談窓口は行政に取り組んでいただかなければ難しいと思いますし、これはここだけに限らず、日本全国がそうだと思いますが、高齢化は止められないので、そこを前提に考えられた方が良いのではないかと思います。その点だけ述べておきたいと思います。</p>
石関会長	<p>他に事務局はよろしいでしょうか。 その他はいかがでしょうか。</p>

	<p>(意見等なし)</p> <p>それでは、これまでの意見を、委員のご意向を十分にふまえて事務局で取りまとめ、会長一任とさせていただきたいと存じますがいかがでしょうか。</p>
石関会長	<p>(異議なし)</p> <p>特に異議がありませんので、この方法で取扱いいたします。</p>
事務局	<p>次に、事務局から、意見のとりまとめ方法についての説明をお願いします。</p> <p>意見のとりまとめ方法について、ご説明いたします。</p> <p>最終的な協議会の意見としては、委員のご意向を十分にふまえ、事務局でとりまとめて、会長に確認及び承認をいただいたうえで、市長へ報告することを考えています。</p> <p>また、いただいたご意見については、人口ビジョン及び総合戦略に最大限反映させていただくこととし、最終、市長の決裁をもって策定としたいと存じます。</p>
石関会長	<p>ただ今、事務局から意見のとりまとめ方法について説明がありましたが、意見等はございませんか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>それでは、意見のとりまとめ方法については、事務局の提案どおりといたします。</p>
石関会長	<p>次に、事務局から、来年度以降の会議の進め方について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>来年度以降の会議の進め方についてご説明します。</p> <p>本日の第3回協議会をもって本年度の協議会は終了となります。しかし、策定がゴールではなく、今後、地方創生をさらに推</p>

<p>石関会長</p>	<p>進していくため、来年度、平成28年度以降については、本協議会で戦略の進捗管理を行っていただきたいと思っております。</p> <p>行政で事業を実施する場合、民間の事業者と異なり、予算編成を行った後、議会の承認を経る必要がありますので、10月頃、丁度今ぐらいの時期から次年度に実施する事業を選定しなければなりません。</p> <p>つきましては、年度当初の時期に1度、1年間の取組みの進捗状況を確認いただき、さらに、次年度に実施する事業についても議論を行っていただくため、10月頃にもう1度会議を行いたいと考えています。1年間で春と秋の2回、協議会を開催することになります。</p> <p>協議会が開催されない時期についても、戦略に変更などが発生した場合は、逐一皆様にご報告することで、進捗を追っていただきたいと考えております。</p> <p>事務局から、来年度以降の会議の進め方について説明がありましたが、質問などはございませんか。</p> <p>(質問等なし)</p> <p>最後に、行政を代表し、副市長から一言お願いいたします。</p>
<p>副市長</p>	<p>本日はどうもありがとうございます。本来ならば土井市長がご挨拶を申し上げるところではございますが、市長は体調を崩しまして療養中のため出席ができませんので、代わりまして私の方からご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様には、これまで非常にタイトな日程で7月27日の第1回の会議から本日の第3回までご議論をいただき、本日をもって、この総合戦略の策定までの議論を終了するに至りました。改めましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>人口ビジョンに掲げた2050年の展望、人口規模51,000人の維持、及び生産年齢人口50%をめざすという目標に向かひまして、平成31年度を目途とするこの四條畷市総合戦略の施策事業の着実な計画実行が必要と考えているところです。</p> <p>皆様におかれましては、来年度以降、この総合戦略に掲げます各施策の進捗状況を管理していただきまして、また、本市としましては皆様から頂きましたご意見をもとにいろいろと取り組ん</p>

	<p>で参りたいと思っております。今後とも、どうぞご協力、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
石関会長	<p>次に、事務局から、その他として事務連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の会議録につきましては、後日、事務局から送付し内容について確認いただき、指定させていただく期日までに修正点等がありましたら事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。</p>
石関会長	<p>それでは、ただ今を持ちまして、平成27年度第3回四條畷市総合戦略協議会を閉会いたします。</p> <p>皆様、ご協力ありがとうございました。</p>